

本委員会では、「地球温暖化防止対策」について、本市の取り組みの現状と課題の把握に努め、更に、先進地における都市事例調査も実施し、調査を進めて参りました。

### ■富良野市地球温暖化防止計画

本市では平成13年4月に「富良野市環境基本条例」が施行され、この基本理念を実現するために「富良野市環境基本計画」を策定。そして人為的に排出される温室効果ガスの排出量の削減を図る目的で、環境基本計画の個別計画として位置づけされているのが「富良野市地球温暖化防止計画」であります。

### ■温暖化防止は地球的テーマ

地球温暖化の影響は、気候変動、農作物の収穫量の変化が地球規模で起こり、洪水の多発、干ばつ、海面上昇による国土の水没、疾病の発生などが予想され国際的にも重要な課題となっている。本年8月に開催された

洞爺湖サミットの主要テーマとして取り上げられました。

### ■本市の課題と調査のねらい

本市においては、ごみの分別リサイクル対策の取り組みは全国的にも高い水準にあります。温室効果ガスの排出は、市民の日常生活や事業活動など、あらゆる社会活動に起因する事から市民、事業者そして市が、それぞれの役割や取り組みについて理解し、日常的な環境行動に結びつく推進体制が重要です。

計画の目標年度は22年で、現在、計画策定から8年を経過しております。しかし、市民意識の継続的な啓発活動、市庁舎内の意識改革と情報共有、更に、市民の環境対策行動に結びつく具体的な支援対策など、総合的な推進体制は充分と言えません。本委員会では、7月に実施した都市事例調査も参考としながら更に議論を深め、次期環境基本計画に生かせるよう調査を進め、12月の第4回定例会にその結果を報告する予定です。

### ■都市事例調査は温暖化対策

本委員会では、7月16日から18日までの3日間、わたり埼玉県坂戸市、川越市、千葉県浦安市において、事務調査のテーマである「地球温暖化防止対策」の取り組みについて調査を行いました。3市共にISO14001の認証取得をされており、環境問題に対する市職員、市民の意識改革の大きな原動力となっている事が窺われました。3市の特色ある取り組みについて、紹介させていただきます。

最初の調査地である坂戸市の「坂戸市緑と花と清流基金」は、坂戸市の自然環境を、市民との協働で次代へ残す取り組みとして16年に設立されました。15年度のごみ排出量を基準に、削減量1kg当り5円換算で基金に積み立てるもので、基金は植林や雨水タンク設置補助など環境保全事業全般に対する資金として運用されております。市民にとって、自分達の努力が次世代の環境保全に役立っているという実感があり、啓発活動の有効な手法であると思えます。

川越市は、市職員の率先的な行動から始まった「1%節電運

動」をステップアップさせた「1%節電プラス1(ワン)」運動を実施しております。1%節電運動は例として、エレベーター100回利用のうち1回を階段利用とするなどの取り組みです。それに加えて低公害車の導入、庁舎電力監視システム、公共施設に太陽光発電システムの導入をするなどの取り組みがプラスワン運動です。

浦安市は19年11月にISO14001認証を返上し、20年4月から浦安市環境マネジメントシステムに移行しております。内部審査を強化するほか、第三者監査制度を導入し、対外的にも信頼性の高いシステムを目指しております。



環境政策の拠点施設